

可視化して提案する都市計画

～初任者こそEBPMを～



提供：つくば市

茨城県 土木部 都市局 都市計画課

1. 研修参加の動機

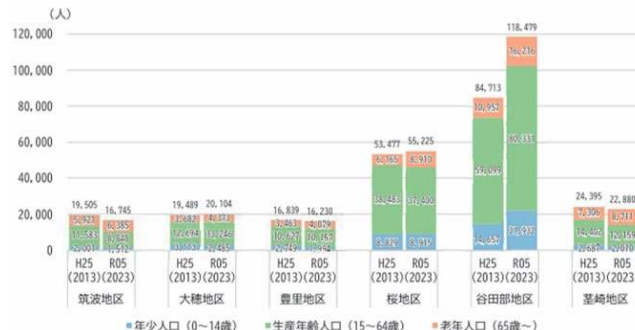
動機及び当市の現状

動機

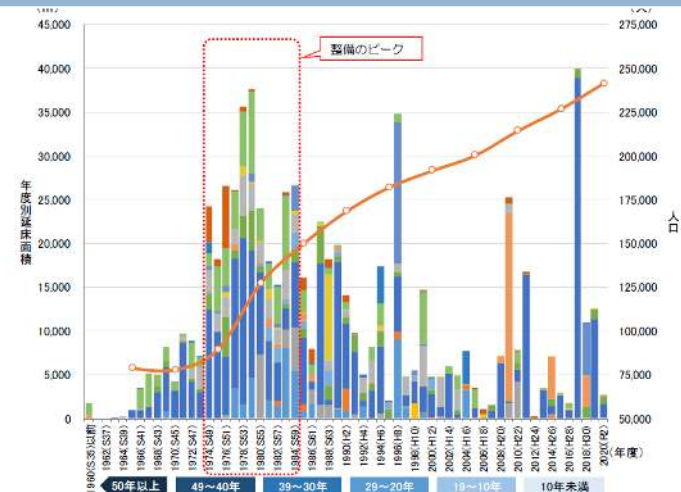
- EBPM
- 担当者レベルでの迅速かつ簡易的な分析
- 担当業務が広く活用される手法の模索
- PLATEAUの整備推進

つくば市の現状

- TX沿線地域にて人口増加
- 公共施設の整備・更新



引用：つくば市都市計画マスタープラン



引用：つくば市公共施設等総合管理計画

2.方針

可視化・分析の方向性

都市計画のトレンド

- 社会情勢の変化に迅速に対応する
- 広域連携
- 立地適正化計画（コンパクト+ネットワーク）

オープンデータの活用

- 再現性を高めるため、原典データはオープンデータを使用する

3.可視化・分析

検討プロセス

優先的に施策を講じるべき地域

- 人口集中エリア
- 交通空白地域
- 居住誘導地域

具体的な手法

- 250mメッシュにより人口集中エリアの特定
- 交通空白地域を駅から800mかつバス停から300m圏外と定めメッシュを切り取り
- 立地適正化計画における居住誘導地域で切り取り、施策的にも進めるべきエリアを特定

4.可視化・分析

可視化（2D/3D）

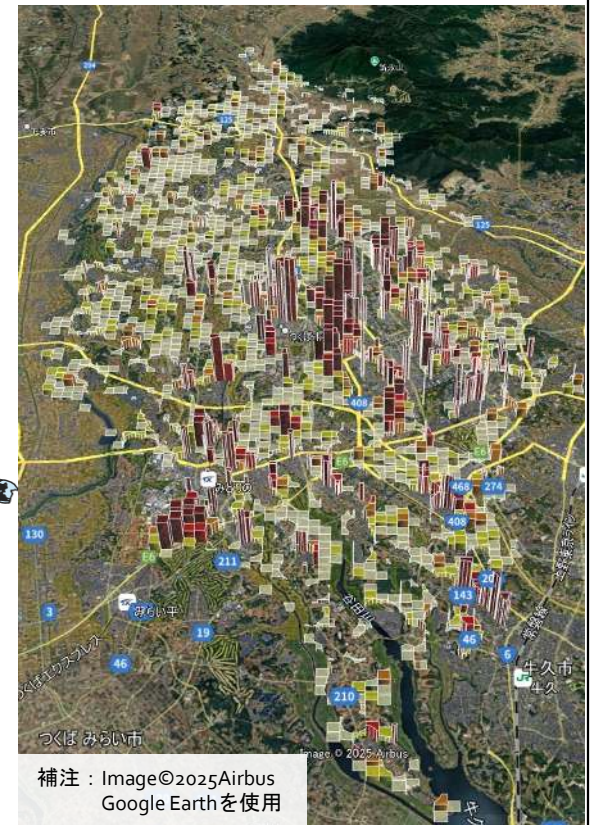
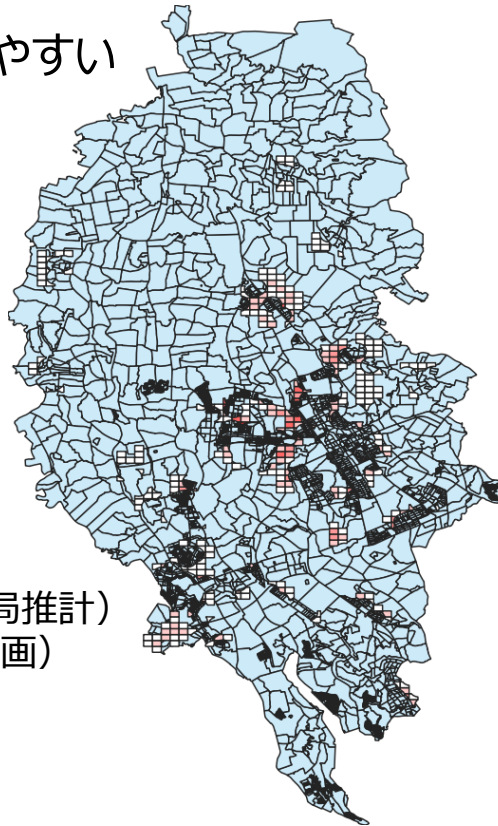
可視化・分析結果

- 2Dでも図表(データのまま)を見るよりは視認性は高い
- 3Dの方がより視覚的に分かりやすい

【使用データ】

国土数値情報（国土交通省）

- 250mメッシュ別将来推計人口（R6国政局推計）
- 都市計画決定情報データ（立地適正化計画）
- 行政区域
- 鉄道データ
- バス停留所



補注：Image©2025 Airbus
Google Earthを使用

6. アウトプット

可視化データを用いた政策提案

まちづくり意見交換会

- 茨城県（広域的視点）及びつくば市都市計画課（現場からの視点）担当者へ可視化データを活用した政策提案
- 意見交換を行い、実務的な視点からも指摘
- 公共施設の整備についても意見交換

4-4.立地の集約

旧谷田部庁舎

谷田部小学校、市民ホールやたべなどを複合施設として再整備



補注：Image©2025Airbus
Google Earthを使用



7.まとめ

研修を通じて

オープンデータ

- 現状のオープンデータのみでも簡易的な分析は可能であった。
- 各自治体が保有している行政情報も活用できればより詳細な分析が可能であると見込まれる。
- 担当業務である都市計画基礎調査のオープンデータ化についても必要性が感じられた。

可視化・分析の展望

- 課内・部内説明の説得力が上がる
- 委託費用・成果物完成までの時間の削減
- 担当者のレベルアップ
- 初任者でも勘や経験に頼らない政策提案

つくば市へぜひお越しください



提供：つくば市